

崎 長 検 定

一級 さん

Vol.14

検定の勉強をして思うこと

野口 義幸 さん

合格率五・三％…。長崎歴史文化観光
検定の最難関を突破した一級ホルダー。
その卓越した識見には、なにやら一言
ありそうです。
さくくはらんに寄稿願いました。

まさか合格するとは……。

これが1級のプレッシャーなのか、普段だとスラスラ出て来るようなことが出て来ない。思い出そうとすればするほど、蟻地獄にはまってしまう。周りの鉛筆の走る音が、更に拍車をかける。その結果、ミスが多かったので正直、今年は諦めていました。合格したことが知れ渡ると、お祝いのメールが来たり、会社の機関誌に写真付きで紹介されたりと、その反響の大きさに、少し戸惑いを覚えました。

私が「長崎検定」を受けることにしたのは退職後にボランティアガイドをするという目標があり、そのための準備（勉強）と捉えたからです。検定に合格することが最終目標ではないため（勿論、合格することにしたことはないが）時間をかけてゆっくりと、一昨年の3級受験からスタートし、毎年受験する級を一つずつ上げてきました。今思えば、この2年かけて調べたこと、

実際に史跡などに行き、この目で確認したり、仲間に説明したりしたことが、今回の合格につながったのではないかと思います。ところで、長崎検定の勉強をしている時、少し気になることがありました。これは私だけでなく、一緒に史跡巡りをした仲間も同じようなことを感じていました。元亀元年の開港以来、長崎の町には多くの歴史があることは周知の通りです。勿論知らなかったことも多くありました。興味を覚え、その場所に行くと、そこには「の跡」という「碑」が建っているだけで、チョットがっかりしました。このような場所が何カ所もありました。

先日、ある講演会で「長崎は歴史の町ではなく、歴史の町」との発言がありました。が、全くその通り、言い得て妙です。勿論、原爆で焼失したものも多くありますが、戦後に取り壊されたもの、道路整備のため消失した場所も多くあることを知りました。

一度壊されると、二度と元には戻りません。復元してもそれは「復元したもの」にすぎず、そこには本当の意味での、歴史の重みがありませんし往時に思いを馳せることもできません。
町の発展や、生活の便利さを求めるあまり、文化財に指定されていない、由緒ある建物や場所などが、これ以上失われることは避けてほしいと思います。
長崎の歴史・文化を後世に伝えるため、微力ですが、お手伝いできればと思います。



【プロフィール】
昭和26年生まれ、58歳。三菱重工業(株)勤務(風車の仕事をしていました)。現在は「福田」に住んでいますが、生まれは本古川町(現・古川町)でバリバリ地下もんです。今年から「さくくガイド」をしています。その他共に認める「くんちパカ」でシャガリを聴くと仕事の手につきません。